

令和6年度(2024年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」	B	各部、各委員会、各学年、各教科においては、評価AもしくはBが殆どであり、年度当初の目標は概ね達成できた。しかしながら、少子高齢社会を迎え、ロールモデルのいない、先の見通せない時代にあつて、予測不能の未来に対応するためには、社会の変化に主体的に向き合い、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、幸福な人生を自ら創り出していくことができるよう導いてゆかねばならない。そのためには、知識を蓄積し、その知識を礎とし、何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立て、その解決を目指す、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことができるよう教育のあり方・学校のあり方を不断に見つめなおしてゆくべきである。また、職員の働き方改革については、今後とも考えてゆかねばならない課題である。
松本美須々ヶ丘高等学校「3つの方針」			
目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校			
DP:生徒育成方針 グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。 CP:教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。 AP:生徒募集方針 基本的生活習慣が身につくこと、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。			
令和6年度(2024年度) 重点目標 (令和5年度～令和9年度 中期目標)			
(1) 教科の学習と探究的な学びの充実により、生徒一人ひとりが自らの進路と向き合い主体的に学ぶ姿勢を育成する。 (2) 積極的な情報発信等によって地域との接点を広げ、多様な人々とつながりながら学ぶことのできる、開かれた学びの環境づくりを進める。 (3) 相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成者としての考えを醸成する。 (4) 自主性を重んじる生徒会活動や探究活動によって得られる経験に立脚し、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、他者と協働しながらよりよい社会や新たな価値を生み出していく姿勢を育成する。 (5) 先を見通すことが困難な時代において、生徒の悩みや不安に寄り添い、学校と家庭の連携と地域人材の活用を強化し、生徒にとって安心安全な学校づくりを進める。			

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務	(1) (2) (3) (4) (5)	① 授業や諸行事が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画・運営は適切であったか、生徒の視点・職員の視点で考えることができたか。また、それによって、行事の精選ができたか。 ・各行事の担当者・担当部署と緊密な連絡がとれたか。	①	B	行事の計画・運営は概ね適切に行うことができた。 連携をとることができた。	生徒の意見要望等も取り入れ、行事の適切な計画運営に努めたい。 今後とも、関係部署、各職員との連携を深めてゆく。
		② 各学年や分掌と密に連絡を取り合う。	・各学年、分掌と緊密に連絡を取り、効果的な学校運営が出来たか。	②	B	概ねできたものとする。	更に効果的な学校運営を考えたい。
		③ 安心・安全な学校作りを努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。	③	B	・防災訓練は計画どおり適切に行うことができた。 ・「中間改修工事」が継続中であり、今後とも危険箇所の把握・改善に努める。	今後各部署、生徒会等を通じて、校内の安全・美化に努め、生徒及び職員が安全快適に過ごすことのできる学校作りを続ける。
		④ 「3つの方針」の推進と、状況に応じた見直しを行う。	・地域との連携、体験活動、研修などを設定・実施できたか。 ・多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施できたか。 ・意欲を持った生徒を募集できたか。	④	B	・信州大学をはじめ地域との連携をとることができた。 ・教育課程について、生徒の実態に合わせて、細かな改訂を行った。 ・中学校訪問等を行い、意欲を持った生徒募集に努めた。	地域の持つ力、教育施設が集まる地の利を活かし、高校の3年間にとどまらず、将来を見据えた教育活動を行うため、今後も地域との連携を深めてゆく。
		⑤ 学校における働き方改革のための取組を進める。	・日課の見直しが行えたか。また、会議時間の短縮ができたか。長時間・時間外労働が解消されたか。	⑤	C	業務が多岐にわたり、長時間労働・時間外労働の解消はできていない。	今後会議のあり方を見直し、また、日課についても考えてゆく。
		(1) (4)	生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、探究活動を通して、科学や地域・国際社会にも目を向けさせ、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	①	B	年度当初の計画に基づいてコロナウィルス等の感染防止対策をとり、夏期のオープンキャンパスは制限をなくして参加を訴え、講演会や研究会などの進路を検討する機会を与えることができた。1、2学年では、外部講師による講演会も行い、意識を高めることができた。	・進路研究の充実と職業体験や選択科目調査、進路希望調査との連携を進め、オープンキャンパスへの参加など進路意識の向上を図るようにする。 ・3年生を対象とした具体的な進路希望調査を3回実施することで、早期の指導や進路実現に対応した体制を作る。
進路指導	(1)	・予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ・Classroomやロイロノート、スタディサプリなどの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・Classroomやロイロノート、スタディサプリなどを利用した動画配信、資料提供などを生徒に活用させることができたか。	②	B	GoogleClassroomやロイロノートの活用により、学習意欲が高められたが、学習時間の確保に向けての意識を向上させることが十分にできなかった。夏期補習や平日補習の取り組みに加え、早期指導による学習意識の向上は図られている。ICTの活用は進んでいる。	家庭学習の時間を確保するために、試験2週間前からの学習記録表を提出させるなど、具体的な方法論を学年と話し合い時間をとりたい。
	(1) (5)	生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、家庭と連携を取りながら教科や学年に助言と協力を求める。特に新課程入試についての対策を講じる。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。 ・新課程入試の情報と対応が生徒や職員間で共有できたか。	③	B	模擬試験の結果の職員間共有が十分ではないが、面接指導や進学先の情報などの指導に役立っていることができています。	模試の結果などが学年通信等で報告されているので、学年内での情報共有はできている。学校全体で共有するための方法論を展開したい。
	(1) (2) (3)	いかなる環境下においても学びを止めさせないために進路に関わる情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、家庭と協同し生徒の学習面、生活面、精神面の支援をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会での情報提供やメールを使った発信をしたか。	④	A	各学年で定期的に学年通信を発行し、生徒や保護者にも情報が共有できるようにだけでなく、進路の情報提供も進路の手引きなどの活用により対応している。	全体的に情報発信はされているので、教員共有のデータフォルダーに入れ、閲覧できるようにしながら継続的に対応したい。

令和6年度(2024年度) 松本美須ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須ヶ丘高等学校

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒指導		①日常生活において、生徒・職員を問わず気持ちよい挨拶ができる。また、交通ルールの遵守、交通マナーの徹底、ヘルメットの着用の推進など、安全意識を高める。	①社会や学校のルールを再度確認させるとともに、これを遵守させる指導ができたか。自転車ヘルメットの着用を推進できたか。生徒が事故を身近に感じ、被害者にも加害者にもならないための交通安全指導ができたか。	①	B	毎月の職員による立ち番指導や安全委員会による呼びかけを行った。また、松本市による「ヘルメット着用促進補助金」の申請手続きを行う過程を通してヘルメット着用の推進を行い、交通安全に対する意識の向上を図ることができた。	・将来のヘルメットの着用義務化を見据え、より一層のヘルメット着用推進をすすめていく。 ・交通ルール・マナーのさらなる指導を重ね、事故の防止に努める。
		②生徒との面談機会を増やして生徒の様子を細かく観察し、変化の予兆とらえる。マメールを発信し、家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	②HR指導、頭髮指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて生徒・家庭の意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	②	B	定期テスト時の頭髮等のチェックに基づく指導を学年中心に行い、状況に応じて個々に指導を行った。校内巡視を行うとともに、抑止力としての防犯カメラの設置も行った。	・保護者への情報提供をさらに複数のチャネルでおこなっていただけるとありがたい。 ・生徒主体の挨拶・交通マナー・ヘルメットなどの呼びかけも継続したい。
		③職員があらゆるチャネルを駆使して、生徒の小さな変化にも気づき、情報を共有し、他部署と連携して初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方と成人年齢が18歳に引き下げられたことについて、生徒に注意を喚起し、適切に指導できたか。	③	A	スマホを中心として、情報機器とSNSの使い方とマナーについては、入学時の指導はもとより、折に触れて注意を喚起してきた。しかしながら家庭における保護者の意識向上と協力体制の強化が不可欠である。	生徒への注意喚起・指導をさらにおこなっていく。平行して、保護者・家庭への意識向上や指導についての協力を強く呼びかけていく。
生徒会		①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	①	A	双蝶祭やクラスマッチなどの各種生徒会行事において、昨年度の反省を踏まえ計画立案しながら、実践することができた。新体制では、役員の考えを話し合いに反映させるため、事前アンケートを実施した。また、生徒たちが自主的に、役員間のコミュニケーションを深める努力をしている。	引き続き、これまでの活動も生かしながら新しい発想を引き出せるよう支援していく。
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。	②	B	双蝶祭では、ほぼ通常どおり一般公開を行い、地域や家族と交流することができた。双蝶祭中にはユニセフ募金、また新体制になって赤い羽根共同募金を行い、社会の一員としての自覚を深めることができた。コロナ以前のような地域のボランティア活動等は今年度でもできなかったため、新年度に向け検討したい。	校外での活動を以前の形に戻していけるように、社会福祉協議会等と連携を図るなど、広く社会へと目を向け、自らが主体的に興味関心を持って関わることのできる可能性を模索していく。
	(2)	③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。	③	A	活発な活動を推進することができた。	活発な活動のためのヒントとなるようなアイデアを提供するとともに、生徒との協働を図る。
	(3)	④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	④	A	定期的に行っている役員会を中心に、face to faceのコミュニケーションの重要性を認識することができた。簡易な連絡ツールとしてはSNSの活用も有効であることを認識させ、それに頼りすぎないよう生徒会活動の中で指導することができた。全盲の生徒が在籍していることで、クラスマッチをはじめとする生徒会行事をとおして、多様性を認識することができた。	役員会は単なる連絡会ではなく、話し合いの場であるという点を重視して今後も指導を進めたい。地域や未知なる分野へ興味関心を持てるようなきっかけ作りを継続して行い、他者を尊重する姿勢を今まで以上に養えるように工夫を図りたい。
	(4)	⑤ポストコロナに対応した感染防止対策をしながら、生徒が前向きに取り組む、新しい生徒会活動を作り上げていけるよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	⑤	B	双蝶祭では、焼きそばの販売なども復活し、通常開催に近い形で実施した。コロナ以前を経験していない生徒たちにとっては手探りの計画立案だったと考えるが、積極的に取り組み新たな双蝶祭を作り上げることができた。感染対策も意識的に行ったが、双蝶祭後に感染者が複数出てしまったことは、反省点として次年度に引き継ぎたい。	他校の様子や、学校以外での取り組みなどの情報を研修会等で役員が自ら収集し生徒間で共有を図りたい。各種行事の計画立案に於いて、役員が自ら考え意見を述べ熟議できる場を数多く設定したい。感染症のカテゴリーが5類になっているとはいえ、行事の際の感染症対策は充分ではなかった。次年度に向け対策を検討したい。
	(5)						
清美		①清美委員会と協力し、ごみの分別・可燃ごみの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ごみの分別徹底により、可燃ごみの削減ができたか。	①	B	ごみステーションにて、ごみを分別することができた。	引き続き、掲示・呼びかけ等を行い、ごみの分別を徹底する。
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ごみ収集、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換、モップ交換などの清掃計画は適切であったか。	②	A	予定された行事等は、計画通り実施できた。年度末のカーテン交換も、計画通り行う。加えて、ロッカーの上に私物を置かないよう呼びかけができた。	適切な清掃計画を立てるとともに、現在のごみステーション周辺の状態を維持する。

令和6年度(2024年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
図書 視聴 覚	(1)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。	① B	図書館資料の充実につとめ、生徒のリクエストにも応えながら、購入をした。電子黒板などのICT機器に対して、連絡や連携をはかった。	機材の接触不良や画像が映らない、音声が出ない等の不具合が時々起り、苦慮するケースがあった。情報を共有し対応を考えていきたい。
	(2)	②図書館資料やICT機器を用いた授業における活用方法の研究を進める。	・授業における図書館資料やICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	② B	読書週間や旬間を始めとして図書館の資料活用を促す機会を作った。特設コーナーは好評であり、一層の資料の活用を促していきたい。	必要に応じて積極的にICT機器活用に関する研修会を実施していきたい。
	(4)	③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	③ B	ICT機器の活用をしながら、さまざまな実践をサポートするよう努めた。家庭科や国語科、探究などの授業で連携を模索し、円滑な学習支援ができるよう研究を進めた。	学習面での連携を図るために教科間でも情報を共有し検討を重ねる必要がある。
保健 教育 相談	(1)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握、情報共有し、チーム支援ができたか。	① A	学年会で出た生徒動向について係でも共有し、カウンセリングなどにつなげることができた。	生徒の情報を担任や保護者と共有し、今後も継続して生徒の心身の成長を促していきたい。
	(2)	②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握する。教員間での情報交換を通じて、悩みのある生徒を初期段階で共有し、実態に応じた対応を行う。また家庭やスクールカウンセラー、外部機関とも連携する。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	② A	生徒の心身の状況を把握し、学年で共有することや担任面談の材料として活用できた。スクールカウンセラーの活用も生徒・保護者・教員合計44名の実施を行うことができ、病院等外部機関につながったケースもあった。(1/14現在)	カウンセリングを実施する時間数が年々増加傾向にあり、来年度も本年度並みの時間数の確保が必要と感じている。
	(3)	③健康診断や保健講話、健康相談活動などを通して、生徒の心身の健康課題の解決を図る。また、生徒が自分の力で健康の保持増進が出来るよう、保健指導や情報提供を行う。	・各種保健行事の実施や、全体又は個別に対する健康教育を行うことができたか。	③ B	健康診断・保健講話については、計画通り実施できた。個別対応は来室時や呼び出し等で実施出来たが、全体に対する健康教育をもっと充実させれば良かった。	各種保健行事は今年度同様に実施したい。保健日より等を通じて全体への健康教育を行う。
渉 外	(1)	①学校と保護者、同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることが出来たか。	① A	文化祭で役員の方々や生徒とのコラボ(フラワーアレンジメント作製)が実現できて良かった。またPTA研修会の発表準備のお手伝いができた。	来年度も、今年度好評だった文化祭でのPTAと生徒とのコラボ企画(フラワーアレンジメント制作)が予定されているので、スムーズに運ぶようお手伝いしたい。
	(2)	②PTA総会・理事評議員会をポストコロナに対応した形で、昨年に続き開催する。また、地区PTAの廃止に伴い、総会で会則を改正する。	・ポストコロナに対応した形で、PTA活動の再開ができたか。	② B	PTA総会で、地区PTA廃止に伴う会則改正を行った。	来年度、中信PTAの事務局が来たり、今年度に引き続いて県PTAでの発表があるので、これらもスムーズに行くようお手伝いしたい。
探究 指導	(1)	①「総合的な学習の時間」を充実させるため、研究を重ね、深い学びの実現を目指す。	生徒の主体性を引き出す工夫をしたか。きめ細かな指導に向けた改善を行ったか。	① A	3学年探究発表会では、1、2年生が発表に加わり、探究の様々な手法について生徒同士で学ぶ機会となった。	学年を超えた学習交流を今後も計画したい。また、探究フェスタの開催時期や実施方法について毎年見直しをしていく。
	(2)	②多様な学びを展開するため、地域との連携を推進する。	テーマや課題に関する情報の提供や人材の紹介などの機会を増やせたか。外部との連携の取り組みをさらに充実させることができたか。連携先を開拓できたか。	② B	今年度から連携コーディネータ事業を活用した取組をスタートさせ、外部機関や他校との連携による探究学習を進めるきっかけとなった。	来年度以降、多くの生徒が外部との連携を活用した探究学習が展開できるよう引き続き連携コーディネーターや同窓生等の支援を受けながら指導体制を構築する。
	(4)	③キャリア教育を推進し、生徒の人生観・職業観を育み、個々の進路実現を支援する。	生徒の社会活動への参加を促進させることができたか。多様な学びの場を提供することができたか。生徒の進路実現に貢献したか。	③ A	1学年では、夏季休業を活用したフィールドワークやオープンキャンパスへの参加を、2、3学年では、テレビ信州の松澤さんによる探究講演を実施した。探究学習の進め方を学ぶとともに、進路実現につながる貴重な機会になった。	同窓生や外部機関との連携を図りながら探究学習を計画し、生徒が社会との関わりの中で学ぶ機会を確保したい。フィールドワークの受け入れ先の開拓を進める。

令和6年度(2024年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1 学 年	(1)	①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。	①	A	多くの生徒が基本的な生活習慣は定着している。ただ、少しずつ悪い意味での慣れが出始めている生徒もいるので、継続的な指導が必要である。	引き続き継続的な指導を続け、活力ある、けじめのある高校生活を送れるように支援をしていく。
		②生活環境をしっかりと整え、気持ちよく生活を送る。	・生活環境を整え、生活ができたか。	②	A	特に、廊下のロッカーの上は、年間を通じてきちんと整理できた。	引き続き継続的な指導を続け、今年度同様生活環境をしっかりと整え生活できるよう支援していく。
		③学びを大切に、日々の学習内容・学習態度・学習方法を振り返り、基礎学力の定着が図れる様よう指導する。また、平日及び週末課題を課し、家庭学習習慣の確立をはかる。	・基礎学力の定着が図れたか。また、家庭学習の習慣が定着したか。	③	B	各教科から週末を中心に課題を課すなど基礎学力の定着を図った。各生徒の取り組みに徐々に差が出始め、そのため基礎学力の定着にも差がある。また、定期考査やスタディサポート、校外模試の結果をもとに面談を重ね、学習意欲・目的意識の向上や家庭学習の定着を図った。多くの生徒が部活動に参加しているため、家庭学習の確保に課題がある。	生徒の目的意識の向上や、やる気を引き出すような工夫をしていく。
		④2年次に向け進路実現のための文理選択を考えさせる。特に、オープンキャンパスや総合的な探究の時間、LHRを通して、自分の進路について考えさせ、学部学科を視野に入れながら文理選択を行い、より自分の進路を絞り込む。また、ライフプランの作成を通して将来の職業について考えさせる。	・学部学科を視野に入れながら、また、自分の進路実現のための文理選択ができたか。	④	A	夏期休業を活用した企業見学やオープンキャンパスへの参加等外部に向けた体験活動を実施し、探究活動を通して生徒が自分の視野を広げる機会となった。また、総合的な探究の時間で職業や自身の進路に関する課題を学習し、自分自身の進路についてしっかりと考えることができた。さらに、6・9・11・1月の4回、進路講演会を実施し、生徒自ら自分の進路を考え、文理選択・科目選択をする一助とすることができた。	かなり自分の進路について考えることは進んだが、まだ見通せない生徒が一定数いるので、引き続き講演会や分野別ガイダンス、個人面談等を通して、進路意識を高めていく。また、同じ目的を持った仲間づくりができればとも考えている。
		⑤探究学習では、自分自身に目を向け、自分の興味・関心があることを追及させる。また、課題テーマを設定し、情報収集・分析・整理、表現・まとめ、振り返りといった一連のプロセスを学ばせる。	・自分に興味関心があることや探究のプロセスが理解できたか。	⑤	A	第1期は自分の興味に基づく課題を探究する。第2期は職業や自己の進路に関する課題を探究する。第3期はプレ探究というテーマで実施した。何回かグループ発表を行い、成果を確認している。	グループ発表の回数を重ねるごとに、発表内容に工夫がみられるようになったが、個人差がある。意識が低い生徒へのアプローチをどのように工夫するかが一つの課題である。
2 学 年	(1)	①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。	①	B	適宜学年集会を開くなどして、規律徹底の働き掛けはできたが、時間が経過すると緩み始める生徒が見られた。	粘り強く継続して、学年全体で声掛け、支援を行っていく。
		②1日1時間30分以上の学習時間をとれるように習慣化する。SHR時に朝学習を行い、基礎学力をつけ、受験に向けての基礎を身に付ける。スタディサプリを活用して、大学進学を希望する生徒だけでなく、学習内容の定着がおぼつかない生徒にも補習を行い、学年全体が学びに向かう集団になる。	・学習が習慣化できたか。学年全体として学びあう雰囲気になったか。	②	B	学習環境を整えるためにスタディサプリを導入し、朝SHR時に取り組ませるなど学習意欲を高めることを実践した。また意欲が高い生徒向けに追加の課題を配信、補習を行い、学習集団が作られ始めた。家庭学習の時間については、学年通信を発行することで意欲を高めていったが、生徒によって差が出てきている。	生徒によって学習時間などに差がある状況であるため、まだまだ学習集団作りが完成してはいない。学年通信の内容の工夫やSHRなどの時間を通して生徒が意欲的に学習に取り組むことができるような状況を作っていく。
		③進路についての意識を高め、自分の視野を広げる。(オープンキャンパス・学校説明会・ミニ進路講座等の参加)	・進路意識が高まり、受験モードへと切り替えができたか。	③	B	LHRや探究、放課後を使って進路に関わる行事を設定し、進路への意識づけを積極的に行った。また、研修旅行後は、共通テストの話や3年生の進路体験を聞く機会を設け、受験生への切り替えを意識させた。だいぶ変化も見られてきたが、まだ気持ちの切り替えができていない生徒や自分の進路に関して曖昧な生徒も見られる。	学年全体としては、より具体的な進路行事(推薦入試や共通テストなどの講話)を引き続き行っていくことで意識を高めていきたい。また、こまめに個人面談を行っていく中で、生徒の進路の状況を把握し、志望校決定の支援を行っていく。
		④探究学習について、多様な価値観・考え方に触れることで、自身を客観視し、主体的・協動的に取り組む姿勢を涵養しよう。地域や身の回りのことに目を向け、課題や改善点を発見することで、地域の一員であることを自覚するとともに、よりよい地域の在り方を模索し将来地域社会で活躍できる人材になる。物事の本質を追求し、学術的な力を身につけよう。進路に結び付くような探究学習を行おう。	・探究学習が、地域に絡みながら、自分の興味や進路に関係したものになったか。	④	A	今年度は情報収集において、外部人材を活用して学校外の繋がりを意識させた(松本市役所や探究コーディネーター)。また、昨年の取り組みの反省からインターネットや書籍からの二次情報に頼る生徒が多かったため、一次情報の収集の強化というテーマをもち生徒一人ひとりにフィールドワークを実施した。実際に自身の五感を生かしたことで探究を自分事として捉えることができたのではないかと感じている。課題はプレゼンテーション、相手に伝えるという意識が希薄であり、スマホなどのカンペを眺めながら発表する生徒が多くを占めていた。伝え方を客観的に意識できるよう促していく。	生徒によっての取り組みの温度差が見られるが、担任・副担任で協力して探究学習を行えることで、手厚い探究活動になったのではないかと考える。教員にとっては専門外の分野にあたる場合が多いが、外部との繋がりや図書室の利用、信大を有効活用することが今後も求められると考える。
		⑤10月の研修旅行後には受験モードへと気持ちをしっかりと切り替えて、志望校の決定を目指す。					
3 学 年	(1)	①自己の進路希望の実現に向けて計画的に学習するよう指導する。また、各自に合わせた探究型学習を進路活動に生かせるよう指導する。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。 ・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	①	B	・生徒の進路希望を定期的に把握し、その状況を見て必要な情報を進路通信で発信した。現在は共通テストに向け、特編等を行っている。 ・探究学習の研究発表で行ったプレゼンテーションの経験が入試に向けた対策にもなった。	推薦入試である程度の成果だったが、これから受験する生徒の頑張りを支援していきたい。 新教育課程になって最初の学年であったが、学習や進路状況を検討する機会があればよい。
		②生徒会活動や部活動等の課外活動にも積極的に参加し、充実した高校生活を送れるよう導く。	・高校生活を振り返って満足する生徒が多いか。	②	A	・文化祭は、大勢の来校者を迎えて計画通りに実施することができた。 ・クラブ活動では目標とする大会や発表会などで全力を尽くせた。	高校生活最後という意識づけをすることで文化祭やクラスマッチなどの行事や大会にも積極的に取り組んできた。
		③学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。	③	A	・定期的に進路通信を配信し、情報を提供することができた。	より密な連絡、情報発信のためには簡単なシステムと余裕が必要。
		④自己を大切にするとともに他者を理解尊重する姿勢を身につけ、社会で認められる人格を形成する手助けをする。	・自己肯定感を高め、多様な価値観を持つ他者に対する配慮ができるようになったか。 ・成人としての自覚を形成させることができたか。	④	B	・様々な進路目標が即ち多様な価値観の表れであることをお互いに理解し、尊重するよう指導した。 ・成人になった生徒には選挙の投票を促した。	平林君の存在が非常に良い影響をもたらしていた。このことにより他者を意識させるのが良い。

令和6年度(2024年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (3) (4)	①言語教材、その他データ資料から正確に内容を捉え、現代社会の情勢を知り、我がごととして思考する力を育成する。	・目標達成のために資する適切な教材を設定できたか。 ・語彙力向上のための小テストを有効に活用できたか。	①	B	・従来の教材とデジタル教材を活用した授業展開ができた。 ・小テストによる学習習慣の定着が図れた。単元ごとの学習達成評価につなげるテストのあり方を研究する必要がある。	・デジタル教材活用の教員間の情報共有を進めたい。 ・他教科の実践も参考にし、課題や小テストの配置を整えていく。
		②生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自分の意見を発信する力、他者の意見を聞くことによる多様な考え方を受け入れ柔軟に思考する力を育成する。	・生徒間コミュニケーションを図れる授業、記述レポートなどを組み込んだ授業展開ができたか。	②	B	各学年で、ロイノートをはじめとしたデジタルツールを活用し、生徒間の活発な意見交換が行えた。多様な意見の共有とそこから発展する思考力の育成が図れた。	デジタルツールの活用事例を教員間で共有していく。
		③口頭(プレゼンテーション)、文章とともに、自らの考えを論理的に他者に伝えるように表現する力を育成する。	・生徒の進路に沿った表現の指導ができたか。	③	B	授業や個別指導で表現指導の充実を図った。国語表現、個別の進路指導でも小論文だけでなく口頭試問対応やプレゼンテーションの機会もつくり工夫した。	探究発表の年間の流れと合わせた形でプレゼンテーション指導の調整を図る。
		④古典文化と現代社会とのつながりを示し、幅広く深い教養による豊かな人間性を育むとともに、生徒の探究心を刺激するような授業展開を研究する。	・生徒の探究心を刺激するような授業研究のために、教員間で情報交換や授業参観ができたか。	④	B	デジタルコンテンツを活用し、現代社会とのつながりを提示する授業展開ができた。授業参観を行い、教員間での情報交換や授業改善につなげることができた。	引き続き、教員間での情報共有を行い、より魅力的な授業を研究していく。
地歴公民		①グローバル化する国際社会、ダイバーシティ社会の構築が目指される社会を鑑み、主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する主権者を育成する。	・他者理解や主権者意識を高める学習活動を行えたか。	①	B	時事問題を取り上げて、重点的に掘り下げる。生徒にレポート課題で主体的に考えさせた。また、信州大学や税理士会などと連携して財政や租税の役割を学ぶワークショップを実施した。	タイムリーなテーマを重点的に取り上げ、生徒の主体的な取り組みを工夫し、当事者意識・主権者意識を育てていきたい。
		②地球的課題に関する知識を身に付け、それらを解決しようとする態度、他国や他文化を理解し尊重していく態度を身につけさせる。	・ディスカッションやレポート作成、生徒による自己評価、定期考査などを通して知識の定着と理解が図れたか。	②	B	当事者意識を持たせるため「自分ならどうするか?」の問いに対し、自分の考えを表現する機会として、グループディスカッションやレポート作成などを意識して設定するようになった。	課題の与え方・評価の方法など、研究や情報交換を重ねていくことが必要と思われる。
		③生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業について研究する。	・PDCAに基づく授業の振り返りを実践することができたか。 ・教員同士で相互に授業を見合うなどしてお互いにアドバイスをすることができたか。	③	B	現代社会が抱える諸課題(例えば持続可能な財政運営、世界の安定に資するハードパワー、ソフトパワーについて)など工夫したレポートが課された。	授業担当者間の連携を大切にして、更なる指導方法や評価の工夫を図りたい。
		④教科の理解を深めたり、幅広い視野で物事を捉えたりできるように、ICT機器やオンライン学習システムなどを活用して新しい指導方法を研究する。	・新しい指導方法や教材・教具を工夫して利用することができたか。	④	B	ロイノートやゲーグルフォーム、最新データを用いた授業など、興味深い授業展開がみられた。	教科内で指導方法の情報共有を行い、他教科の実践方法も参考にしながら、教育効果の高い方法を工夫していきたい。
数学		①基礎事項の定着を図り、思考するための土台を築くことができたか。	・単元テストや確認テスト等を定期的実施して、個々の習得状況を確認することができたか。	①	A	単元テストをマークシートを使って実施し、基礎知識の習得状況を確認できた。間違えやすい部分の傾向を把握し、授業に生かすことができた。	間違えやすい部分の傾向を把握し、授業に生かすことをめざす。また、単元テストの実施回数についても今後検討していく。
		②ICTの利用を促進し、図やグラフ等を視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。また、ICTを活用した授業展開を研究する。	・ICTの効果的な活用について意見交換ができたか。また、授業の質の向上を図ることができたか。	②	B	授業の展開について活発な話し合いができた。ICTの効果的な活用方法について授業者が互いに意見交換する機会を増加した。	効果的な活用方法について授業者が互いに意見交換をする機会を増やしていきたい。
		③論理的に思考したことを「言語」によって表現できる能力を育成する。	・授業や提出課題、考査等で、生徒が論理的に記述をすることや発言をすることができる力を身につけるよう支援できたか。	③	B	講座によって、ICT機器やプリントを利用することで、生徒の数学的な思考を引き出し論述させる活動ができています。	共通テスト等から数学の力だけでなく読解力、論理的に考え表現する力を養う必要がある。今後の授業内容についても検討を重ねたい。課題の効果的な取り組みについて研究を重ねていきたい。
理科		①自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、理解を深める。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする力が身につけられたか。加えて、理解を深められたか。	①	A	・全学年観点別評価を実施する年度を迎え、教員間での情報共有や生徒への周知も丁寧になった。 ・慣れない科目を担当し合う状況にある点は、改善できるという。	・観点別評価について、効果的で運用しやすいやり方を実施していきたい。
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。また、そのために必要な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につけられたか。さらに、そのために必要な技能が身についたか。	②	A	・例年並みに実施することができた。 ・実験レポートの作成度合いが評価に組み込まれ、生徒の意欲向上につながっている。	・探究と結びつけられるようにしたい。実験の授業内できっちり振り返りになるような話題提供をするなど。
		③授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進する。	授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進できたか。	③	A	・タブレット、クラスルーム、ロイノート、スタサプを活用して授業を研究することができた。	・授業相互視察などを通してICT機器の利用を研究し、授業や業務の効率化を図りたい。
		④教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進し、働き方改善に努める。	教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進できたか。	④	A	・議題資料をTeamsで共有すること、円滑に協議を進行できた。	・早めの情報共有を心がける。科会の有無やレジュメ作成。

令和6年度(2024年度) 松本美須ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須ヶ丘高等学校

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
保健体育		①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身に付ける。また、生涯スポーツにつなげる資質や能力を育成する。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか ・安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	①	B	・数名を除けば概ね適切な服装、ルール・マナーを守り授業に取り組むことができた。 ・1年生に関しては活発な生徒が増えた気がする。	今年度も柔道については見送ったが、柔道着を購入することを考えればこのまま柔道については導入しない方向になりそうである。
		②健康の保持増進のための知識や実践力を身に付け、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を育む態度を育てる。		②	B	保健の授業については各自取り組んでいるが、更に発展した取り組みを検討したい。	ICTの活用。
芸術		①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。	①	A	芸術文化に興味関心を持たせる各講座の授業展開。意欲的に取り組める教材設定ができた。	引き続き学習意欲が湧くような教材研究、教材設定が必要。情報共有で更に発展。
		②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。	②	B	達成できたと考える。生徒が意欲的に課題に取り組むことへの改善は今後も課題である。	一人一人の生徒に合ったアドバイスの仕方の情報共有。情報収集。
		③様々な表現活動において、自らが積極的に活動することはもとより、他者の表現を尊重する心を育み、共同して表現活動を行うための協調性を育成する。	・グループ活動における共同作業をスムーズかつ有意義なものとするためのアドバイスなど、生徒支援ができたか。	③	B	表現活動を積極的に受けてくれる生徒が多く、的確なアドバイスができていたのではないかと考える。	教科会等で意見交換をし、それぞれ今後の課題について話し合い対策していきたい。
外国語		①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学習定着の工夫ができたか。	①	A	各学年で積極的に定期考査以外で単語、文法項目等に関わるテストを設定し、語彙数増加や文法定着を授業外でも図ることができた。	次年度以降も定期考査と同様のモチベーションをもって、小テストにも取り組めるよう働き掛けを継続する。
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見を発信させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。	②	A	各学年でパフォーマンステストや活動を適宜取り入れることで、インプットだけでなくアウトプットの機会も十分に設けることが出来た。	次年度以降も、各科目間で調整しながら、上級学校進学のための入学者選抜のトレーニングにもつながるよう、積極的にアウトプットの機会を設けていく。
		③生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。また、英語検定などの外部試験も活用するように促す。	③知識定着に加え言語活動を多く取り入れ、英語検定なども活用し英語の運用能力を総合的に育成することができたか。	③	B	英語検定の形式を活用して、パフォーマンス活動を行うことができ、実際の検定受験につながった授業もあったが、思考力の育成という部分では、考えさせたり、知識をつけるような活動が不十分であった科目もあった。	思考力の育成に関しては、生徒に考えさせる機会、そして考えるベースとなる十分な知識を身に着けさせる機会も英語学習と同時に並行で行わなければならないので、それを意識した授業の組み立てを行う。生徒の主体性を育む活動も今後必要である。
家庭	(1) (2) (3)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。	①	B	社会の出来事や実験をもとにした学習内容を盛り込みながら授業について研究を進めている。	リアルタイムなニュースや新聞記事を活用しながら、今後の社会の状況に注目し、自分の生活と関連付けた学習活動を取り入れたい。
		②「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心を持ち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。	②	B	消費生活分野では、悪質商法や契約のトラブルに関する事例をもとに被害に遭わないための解決策をグループで話し合うなど、学習で得た知識・技術を活用した学習に取り組んだ。	消費生活センター職員による消費者教育や金融機関等による金融教育の実施等、家庭基礎の授業を中心に実施について検討を進める。
		③ICT機器を活用した教材作成や外部との連携による学習指導等、効果的な指導方法についての研究を深める。	・生徒が主体的に学習する環境を整備することができたか。	③	A	生徒が自分で考え、学習を進められるような効果的な教材づくりに取り組んだ。また、外部講師や外部との連携を活用した授業を実施し、生徒が主体的に取り組む機会が増えた。	外部との連携を今後も継続的に実施し、学習内容を充実させていく。
情報		①情報学の基礎となるリテラシー、基本的知識、実践技術、セキュリティ意識、情報モラルなどを定着させる。	・授業を通して、基礎的な知識スキルが定着したか。	①	B	考査の平均点はすべて60点以上となり基礎的な知識は定着した。またオフィスアプリの他、HTMLを用いたHPの作成、エクセルを利用したシミュレーションも概ね完了した。	共通テスト用のプログラム言語に近い今後のもっと上手にパソコンを利用してゆけるとより良いと思う。
		②グループワークやプレゼンテーションの作成発表を通して、生徒自身の発信する能力を育成する。	・生徒が積極的に自分を表現し、発表することができたか。	②	B	探究の発表において積極的にパワーポイントを利用する者もおり発信力もついた。	パワーポイントに限らず、ロイロノートも利用できれば他教科との横断的な利用も考えられる。
		③積極的にICT機器を活用した教材作成や学習指導等、効果的な指導方法についての研究を深める。	・高度情報社会を生き抜いてゆく基本的方法を身につけることができたか。	③	B	ライフズテックレッシンを利用した年度の2年目でもあり、活用方法に慣れた。考査前には何度もログオンさせてAIドリルに参加できた、根気強く取り組む者は考査でも高得点となった。	3年次に共通テスト対策が不十分であると考えている。今年は授業内容をまとめた動画を参考にしたプリントで対応したが、今後は情報1の演習を3年次に考えてもよいと思う。